



アンコールクライマーズネット (ACN) ニュースレター

by Angkor Climbers net

アウトドア総合ブランド (株) モンベル、アウトドアギヤ輸入販売 (株) ロストアローより賛同・支援をいただいています。

<http://www.angkorclimbers.net/>

2011/12/31 第8号

シエムリアップ州内中高校生・ワークショップ2011開催

2011年10月16日に開始したワークショップだが、雨季の洪水でほとんどの生徒はウォールにたどり着けず、当初は閑散としていたが、10月31日のRound-3では50人を越える人々がスラブに立ち私たちを慌てさせた。



ウォール隣に住む姉弟。12歳未満だが母と面談済み。スムロンが保護者の代理人となった

Workshop は朝の7時半から10時まで、夕方6時半から9時までの2部構成だ。ACN-YOUTHも参加者にロープを着けてビレイし、様々なアドバイスをしたり、ほとんどインストラクターと変わらない仕事振りだ。夕方遅くなって参加者が少なくなると、やっと彼らも自分のクライミングを始める。



コンペティション・アンコールカップ 2012 開催計画

2012年1月29日(日)にアンコールクライミングウォールで、カンボジアで初めてとなる公式クライミングコンペティション、『Angkor Cup 2012』(アンコールカップ2012)を開催する。

●開催母体

- ・主催 カンボジア・クライミング連盟 (CCF)
- ・主管 アンコール・クライマーズ・ネット (ACN)
- ・運営 Angkor Cup2012 運営委員会 ※CCF、ACN、その他の横断的協力組織
- ・後援 カンボジアオリンピック委員会 (NOCC) (予定)、シエムリアップ州教育青年スポーツ局 (予定)

●協賛

モンベル、ロストアロー、Singapore Climbers Assosiation (Singapore)、Climbs Asia (Singapore)、Entre Prises (China)、クライミングセンター・アートウォール、クライミングジム・ビッグロック

●参加選手

(1) CCFクラス (カンボジア・クライミング連盟登録選手)

競技スタイル: リード、フラッシュ (予選)、オンサイト (決勝以降)

- ① 1997~1999年生まれ CCF-A-M (男)、CCF-A-F (女)
- ② 1996年以降生まれ CCF-B-M (男)、CCF-B-F (女)

※出場想定最大人数 24名、参加賞: 記念Tシャツ、入賞は、各クラス1位、2位、3位、総合1位 (男女別)、クラス別: 賞状、クライミンググッズ、総合: アンコールカップ (プロロンクマエ作品)

(2) OPENクラス (州内Workshop参加者中高校生、及び一般ビジター)

競技スタイル: トップロープ、フラッシュ

- ① 1997~1999年生まれ OP-A-M (男)、OP-A-F (女)
- ② 1991~1996年生まれ OP-B-M (男)、OP-B-F (女)
- ③ 1990年以前生まれ OP-C-M (男)、OP-C-F (女)

※出場想定最大人数 (Workshop参加者は準備予選通過者のみ) 36名、参加賞: なし、入賞は、各クラス1位、2位、3位、総合1位 (男女別)、クラス別: 記念Tシャツ、賞状、総合: アンコールカップ (プロロンクマエ作品)



2011年雨季ブレアンコールカップで優勝したセイハ16才



NGO アナコットのアナコットチルドレン (孤児) 6人も Workshop にやってきた!!

●開催要綱要約

(1) プログラム

- 6:30 AW オープン
- 6:45 受付開始
- 7:00 開会宣言、ブリーフィング、ウォームアップゾーン OPEN
- 7:30 CCF クラス予選、@95°、リード、フラッシュ、5.10- (女)、5.10 (男)、2本の合計で成績
※アテンプト制限時間は5分、予選通過人数は12名まで
- 9:30 OPEN クラス決勝、@95°、TR、フラッシュ、5.10 (男女とも)、2本の合計で成績
※アテンプト制限時間は3分、超決勝あり
- 11:00 OPEN クラス表彰式

11:30 CCF クラス決勝、リード、オンサイト、5.10 (女) 5.11- (男)、1本

※超決勝あり

13:00 CCF クラス表彰式

13:15 閉会宣言

13:30 打ち上げパーティ、ビジターへのクライミングウォール開放、ACN-YOUTH による13歳未満対応のクライミングサポート

(2) 運営体制

大会委員長: Mr. ウンスレディ (CCF 代表、州教育局長)、審判長: スムロン (CCF 事務局長、ACN 理事)、審判: キムスロイ (ACN 理事)、選手世話人: 高木智子 (予定)、ルートセッターチーム: スムロン、キムスロイ、ウォールメンテ: キムスロイ、ビレーヤー: スムロン、デモクライミング: スムロン、キムスロイ、成績記録放送: 伊藤ちゅう、Mr. ヒヤ (通訳)、受付: 伊藤明子、給仕: ACN メンバー、撮影: JOCV、監視: シエムリアップ警察より1名、医療チーム: 州立ラファエル病院医師1名+看護師1名

※各担当に指導者1名 (カウンターパートナーシステム) 割当予定

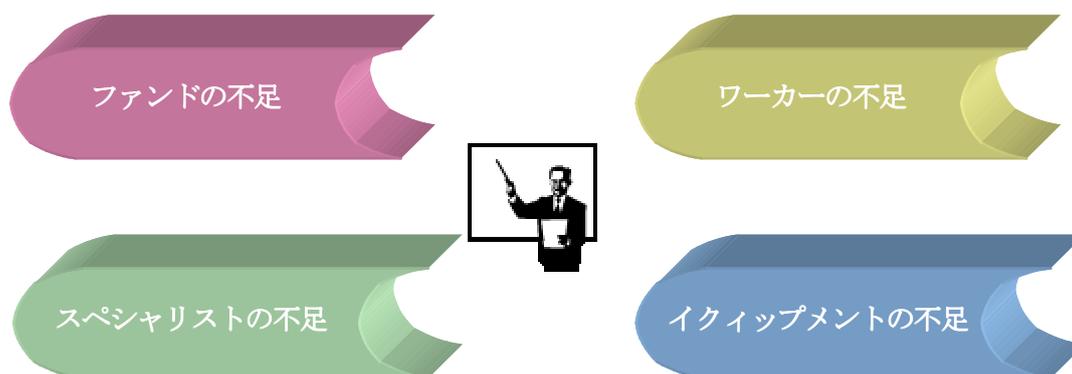
2012年、4つの課題

ACN代表理事・伊藤は、2011年11月、シムリアプのレストラン「スープドラゴン」にて、知人から「シンガポール国際基金」のメンバーを紹介された。「シンガポール国際基金」は、カンボジアで活動するNGOへ効果的な人材及び資金援助を実施しているとのこと。その後、メールでのやりとりがあり、伊藤はくだんのコンペティション「Angkor Cup2012」の開催運営について協力を仰いだ。そして同国際基金より下記のような素朴かつ重要な質問があった。

”で、ACNは何が問題で、どんな助けがいるのか？”

それで以下4点を、ACNの重要課題としてお知らせした。これらはいつまでも私たちを悩ませる永遠の課題のような気もするので、ここで取り上げておきたい。

(結果、今年度の「シンガポール国際基金」からの資金援助は検討時間がないので見送り、代わりにコンペに関してできることを、と連絡があって、ホールドを寄贈していただける団体が紹介された=前ページの協賛団体)



1. ファンドの不足

ウォール運営費、クライミング普及事業費、岩場整備開拓費、その他の資金

2. ワーカーの不足

ウォール整備、運営管理業務に必要な人材

3. スペシャリストの不足

クライミング技術指導者クラス、ウォール施工・保守管理指導者クラス、運営管理指導者クラスの人材

4. イクイップメントの不足

ホールド、クライミングギヤ、PCなど、運営に要するハードウェア全般

●カンボジア近隣国へも援助要請

今回シンガポールからのオファーがあったことを機に、日本に限定せず、近隣国へも援助要請を発したいと考えている。ことにワーカーの派遣や備品寄贈に関しては、大変好都合だ。



また、シンガポールと、さらにアントレプリーズ中国（香港）支店からホールドが寄贈されることになったが、いずれも輸送費込み。備品寄贈はモンベル、ロストアローからかなりいただいているが、輸送費用がこちら持ちのため、これらの支出がかなりな額になっていて悩みの種となっている。

「資金」は”超”課題だが、個人の方をお願いするのは日本の現状を考えると難しい。これもまたシンガポールの例からインスピレーションを受けたが、NGOに資金援助する様々な資金援助団体への働きかけを想定した。プレゼンを伊藤代表に限らず、安田理事も対応を考慮することで柔軟に出来たらと考えている。

●主導ではなく、指導を

スペシャリストに関しては、飽くまでも”きめ細かい指導”をいただく点を強調したい。”主導”になってしまうと、ひと何も育たず、作り物があれば、それだけが残る。そういう見本はいっぱいあるが、仲間入りはしたくない。これらワーカーも含めたマンパワーについては、地理的には日本よりも近隣国へお願いの方が合理的かもしれない。

●クライマー奨学金制度の開始 (ACN-YOUTH 奨学金制度)

2011年11月度より、適用条件にマッチする YOUTH メンバーの保護者に、当該給付要綱にて奨学金を支給することに決定した。

== 適用条件 ==

- ① 過去6ヶ月間のトレーニング参加回数が開催数の70%以上となっていること
- ② 現時点で高等学校へ通学していること
- ③ 面談を行い、クライミングを続けながら学校へ通い続けるしっかりした意志を確認出来ていること
- ④ ACN 代表理事、もしくはその代理人が保護者と面談を実施、クライミング継続についての同意が口頭及び文面にて確認されたこと



セイハ 16 才

== 奨学金給付要綱 ==

・給付方法

毎月25日に特別な理由のない限り、保護者宛て現金にて給付する

・給付期間

給付決定通知の日付を含む月の25日～31日に第一回の給付を実施、以後、通学の終了するまで毎月25日に給付する

・給付額

一律毎月 \$ 5

・給付の停止

2度の警告が出たとき、または1度の停止通告があったとき、正常に通学期間を終了したとき、もしくは、他の方法で定期的に報酬を得ることが開始されたとき、給付を停止する。

※特別な理由も無くトレーニングの欠席が目立ってきたとき、その他、不適当な行動等があったとき＝警告、通学を停止したとき＝停止通告

2011年11月度から給付対象となったのは下記の3名。

セイハ 16 歳男子高校生 (2011 プレアンコールカップ優勝者)

テビィ 17 歳女子高校生 (2011 プレアンコールカップ優勝者)

モニィ 17 歳男子高校生

テビィ 17 才



モニィ 17 才



●定例活動

Climbing Workshop

2011/10/16 (日) より毎日曜、シェムリアップ州内の中高校生を対象にしたクライミング・ワークショップをアンコール・クライミング・ウォールで開催している。12/31 までで、すでに 9 回実施された。これまでの参加者は引率教師を含めて 72 名。参加校 8、学校単位とは別に「近所」の様々な生徒も受け入れた。男女別では、男子 47 名、女子 25 名。今年度のこの試みはコンペ実施 1 週前の 2012 年 1 月 22 日まで継続する予定。ワークショップの経験からトレーニングを継続希望する生徒をピックアップ、ACN-YOUTH に登録し、さらに 2011/12/31 時点で面談を行い適正の可否、希望、保護者の同意をもって CCF (カンボジアクライミング連盟) に登録、希望すれば、コンペに参加できる、そういうフローを想定している。12 月 18 日時点で、継続を希望し ACN-YOUTH に新たに登録されたのが 4 名。ACN-YOUTH はトータル 15 名 (女子 6 名) となった。その後、さらに数名の希望者が出ている。

Workshop ログ → http://www.angkorclimbers.net/article/20111231_Youth_Log.pdf

ACN-YOUTH トレーニング

2011 年 1 月 30 日に開催したワークショップの前後、スムロンが勤務するプレエンコサ中学校の生徒がウォールでクライミングを開始した。従って 2011 年 2 月を ACN-YOUTH の起源とする。それから 12/18 までの 11 ヶ月で、合計 63 日間彼らの練習が行われた。現在では他の中学、高校からの生徒も加わっている。また、12/18 時点で登録されている 15 名は全員リードクライミングを行っている。第一回の奨学金を受けたセイハ 16 才が、今のところもっとも高いレベルで、5.11+ を 3 便で RP、5.12a も現在 2 便で近々の RP は確実だ。高い資質を予感させる子はさらに数名いるが、共通しているのは誰もが自分よりも小さな子の面倒をよく見ること、年上のひとを敬うこと、そして同世代には抜きん出ようとバチバチ火花を散らす。ひとはそうやって自己を高め、そして様々なことを世代から世代へと継承していく。ときには必要な変更を加えたり修正したりして。ひとの連綿とした流れの原理をここで見るようになった幸運は何の計らいだろう。

トレーニングログ → http://www.angkorclimbers.net/article/20111231_WS_Log.pdf

理事ミーティング

シムリアブにて毎週末、金曜～日曜のどれかで理事の都合に合わせて2～3時間のミーティングを行っている。出席者は、伊藤代表理事、スムロン副代表理事、キムスロイ理事、メサ（クライミングアシスタント）、まれに運営顧問・伊藤明子、高木智子。9～12月に検討された主な議題は下記の通り。

・Workshop 戦術

招待対象とする州内中高校への開催通知について

招待方法

参加応援金設定

・1/29 コンペ開催運営計画

開催母体、後援団体、全体日程、本番日程、ルール

タスクフォース、プログラム、参加者想定、賞品

資金計画、ウォールメンテナンス

セキュリティ（ポリスへの監視依頼）

医療チーム

（州立病院へ派遣依頼、医師1名、看護師1名）

指導員派遣要請について

開催資金援助要請について

・ガイド業務対応について

理念

権利放棄書等の準備

料金

インテリジェントトレーニング



ダブルフィッシャーマンを練習するコサ中学トリオ

セキュリティトレーニング

理事ミーティング終了後、主にウォールでけが人、病人が発生した想定シナリオ検討、及び連携シュミレーションを行った。

IFSC 2011ルール

ルールブックの内容を共同で勉強

クライミングの理論

ACN-YOUTH メンバー対象。トレーニング終了後にデスク学習を行う習慣だ。クライマーのフォールに伴うアンカーが受ける荷重、フォールしたクライマーに掛かるダメージ、ロープが受ける荷重、伸び、ボードに働くベクトル荷重などなど。

●アウトドア活動

チェンマイ研修ツアー

2011/9/21～9/28 にスムロン、キムスロイ、伊藤の3人で、チェンマイ・クレージーホースバットレスへ研修ツアーを実施。エリア管理状況、講習などを見学。また市内にて、ジョッシュ・モリスらが運営する「チェンマイ・ロッククライミング・アドベンチャー」を尋ね、カンボジアのクライミングの現況などを話した。

プノンチエリア、コンポントラッチ研修ツアー

欧米人から新エリア及びルート追加情報が数件あり、その確認と既存ルートのアンカーチェックも兼ねて、水祭り休暇（実際の水祭りイベントは雨季にあった洪水事故への対応としてほとんどキャンセルとなった）2011/11/9～11/11 にスムロン、キムスロイ、伊藤の3人で、プノンチエリア、コンポントラッチへ出掛けた。しかし追加されたとされる新エリアもルートも見つからず、新たにクライマーの入った形跡も無かった。ただし幾つかのランナーのハンガーが無くなっており、緩んだ終了点ハンガーもあった。シャークスフィン周辺の岩塔はほとんどがKセメントのダイナマイトで壊されたが、シャークスフィンだけが残っている。付近にいたワーカーに聞くと観光省から開発停止要請があったとのこと。NOCCの役員に観光省のメンバーがいて、ここでのクライミングを知っているからではないか、とはスムロンの弁。景勝地の景観破壊に待ったが掛かった、と考える方が現実的な気がするが。



岩場開拓、整備

2013年のAW移動計画に際してのプランB（人工壁の利用できない期間の代替案）を見通した、カンファタブル（経済面でも）なエリアを模索しており、2011年9月、10月に偵察を行った。

シソボン 仮称 ロカダイロック=棘棘岩 石灰岩

アプローチが同エリアでもっとも近いが、手前をタフなジャングルで遮られていてマニアでないと見えない（どういうマニアか？）。ふすまを開けるとあ〜ら不思議って言うエリア。現時点では終了点アンカー1ヶ所のみ設置。



ロカダイロック

シソボン 仮称 崖寺カテドラル 石灰岩

スムロンの段取りで崖寺・大僧正との面談が実現。寺院周囲の岩でのクライミングについて、大変好意的な理解をいただいた。私たちは寺院背後に立つシソボン最大のメインウォールにルートを引こうと考えている。

シソボン 仮称 ブロークン・バイヨン・バットレス 石灰岩

シソボンの崖寺岩峰群から2kmくらい北にある小さな岩峰。車を降りてそのまま取り付ける。以前の偵察時、取り付きに地雷マークが見つかって退いた。こちらもまた、スムロンの段取りでコミュニケーション・リーダーと面談、好意的な理解どころか誘致のような歓迎を受ける。地雷はすべて日本のNGOに

よってクリア済みとのこと。バットレスの先端に1ヶ所アンカーを埋めた。

クレーン山南面 仮称 サウスバウンド 粗粒砂岩

シソボンよりも近く、TAXI代が安く上がる。クレーン山南山麓、PHRAH ANG CHUP 寺院の傾斜のない参道を詰める。頂上プラトー直下になると思うが、寺院の背後に10~20mのフェース、ピラーが数kmに渡って東西に続いていた。遠目にはジャングルにさえぎられて切れ切れの岩壁に見えるがスケールはシェフィールドに比肩する(?)。しかしジャングルも半端じゃない。脆い部分も多々あってボルトは一部ケミカルが必要になりそうだが、硬い部分は猛烈に硬くキリが折れたことあり。15mの壁に1ヶ所アンカーを入れて試登済み。

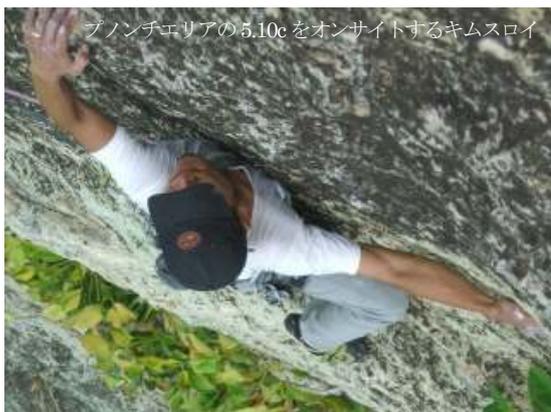


ブロークンバイヨン

●保険調査

ベトナムX-Rockが開始した人工壁利用者向けの1日掛け捨て傷害保険と同レベルの保険の可能性について、シンガポールFortecカンボジア支社、カンボジアオリジナルのカミンコの2社と面談した。いずれも今後の状況を見て検討を進めていくといった返事だ。ACNは両社へ、毎会計年度決算処理後に前年度のビジター利用状況を提示していく計画だ。

●ガイド業務開始への準備



ブロンチエリアの5.10cをオンサイトするキムスロイ

雨季明けと同時に毎日のようにビジターがAWを訪れ、例外なく外の岩へ行きたいと言う。ヤマトGHがツアーをやっているからと教えるが、スムロン、キムスロイは不満そう。何度もミーティングして、実行する前提で、規範等をおおよそ決めることにした。私たちの考えるガイドは、例えば1990年以前のネパールヒマラヤのガイド概念と同じだ。あるいはヨーロッパならマミーのアルプス黎明期。つまりツアーの成功と安全について責任があるのはガイドではなく、バラサーブ、サーブ（顧客）になる。ガイドの最優先要件は、クライミングスキルではなく、当然だが英語、クメール語が出来ること、そして、岩場のある場所、近隣集落、寺院等への、ローインパクトで自然なアプローチが出来ることだ。従って、ACNでガイドになれるのは現時点ではスムロンただ一人。キムスロイは岩場での経験が足りないので補佐といったところ。伊藤は問題外。クメール語が出来ない、英語も稚拙に過ぎる、この国の歴史認識も浅い、村の人々やお坊さんに欠くべからざる礼をもって接する行儀に欠けている点はさらに致命的。2人ともクライミングのスキルに関してはまだまだ遙かなる道のりだが、慎重に前に一歩進めても良い頃かと考えた。希望者に理解と同意を要請する、ACNガイドシステムの解説と提供ガイドのスキル、同意書(Waiver Claus)、ギヤレンタルに関する同意書(IOU)など4点のドキュメントを用意してある。

●会計管理の現地移行

2011年12月17日伊藤の一時帰国に合わせて、カンボジア側の会計担当を伊藤からキムスロイに移行した。完全移行ではまだなくて、しばらくはテスト期間という認識だ。安田理事は会計の現地移行こそ、”真に大いなる一歩”と語った！！

●NCCC (ニュー・チャイルド・ケア・センター) のクライミングからの撤退について

2011年4月21日、NCCCの子供たち(孤児)が、それまで約2年間、51回(51日間)に渡って実施してきたクライミング講習から撤退となった。同日に伊藤宛配信された松本清嗣さん(NGOるしな代表、NCCC運営責任者)からのメールで知らされたのだが、奇妙なことに理由についての合理的な説明はその後、いつまでもなかった。そこで、質問を整理して松本さんにインタビューを申し込んだ。10月19日のインタビューに先立ち松本さんには次のような文面のレターをお渡しした。

『ACN理念は正しいクライミングの普及です。ですので孤児院だけが対象ではありません。正確には「孤児院も対象」です。しかし、NCCCへのスクーリングを身近な縁で開始していた経緯から、この点が一部の協力者に間違っただけで伝わったようです。無論、寄付が集めやすくなるといったメリットに甘えた運営戦略が、そういった理念の隙間を赦してしまったのが結果、寄付・寄贈者、支援者の少ないひとびとが、ACNは気の毒な状況にある子供たちに生きがいを見つけてもらうためのイベント団体と、狭量に理解された可能性があります。それがひとつ。現在では私たちはNCCCのクライミングからの撤退を、私たちの活動の失敗と認識しています。しかし、誰もが致命的とはいえない失敗の積み重ねで成長する訳ですから、失敗は良い機会だとも考えています。とはいえ現状のような、これを無かったことのように風化させてしまうことには大きな抵抗があります。その失敗とはいったいどのようなものだったのか。それがふたつ目になります。私たちは私たちの支援者に対して、この失敗を誠実に語る義務があると考えており、先に述べた2点がその中心的な理由です。そして、質問者回答者の考え方や結論で脚色されたものではなく、起った事実を包んだ空気とその情景を丸ごと支援者に提示していただくためにインタビューという形式をとらせていただくことにしました』

インタビューの内容は録音され、伊藤がテープ起こしをしてテキスト化し、松本さんの校正と、公開同意を得た。その記録は14,000超の文字数となった。あらためて読むと、NGOハート・オブ・ゴールドとNGOるしな(NCCCは両NGOの共同プロジェクトとしてスタートしたようだ)との間に起きた確執と双方の未熟な(と推察される)運営が、そこに関わった様々な人々(私たちも含まれる)を否応無く振り回していった状況が見えてくる。しかし第三者への公開には危惧すべき幾つかの点も見つかった。松本さんの話には様々な人物が登場する。当然だが、すべてトラブルの渦中にあった松本さんの視点で語られる。それを無制限に公開することがフェア(公平)かどうか、そして、この記録を公開することで、NCCCの子供たちが将来いわれない傷を受けないか、といったことが気になってきた。本来ならすべての関係者から聞けばいいのだが無理がある。また、すべてのひとの話を網羅することは手間や文字数を考えれば現実的とはいえない。例えば、松本さんの話で、現場でNCCCの運営に直接携わっていたカンボジア人の女性スタッフがいる。私(伊藤)はこのひとこそ肝心な点を明らかにするキーパーソンと受け取った。しかし、インタビューで語られる松本さんの評価と、私のそれは正反対だ。彼女は、このトラブルの中にあって唯一人子供たちを守ろうとして言動したように、私には思えた。しかし松本さんは、彼女が自らの保身に拘泥したといった文脈で説明している。かくもひとの見方感じ方は異なる。しかし偏りや先入観を捨てるのは至難だろう。それでも松本さんにインタビューをお願いしたのは、何も明らかにされないよりは、かなりまじらうと考えたからだ。無論、そこにたとえ曲解や誤解のリスクがあっても。導き出したいことは、私たちがこの“失敗”から何を学ぶか、それを私たちの支援者に“語る”ことだ。ということで、伊藤の独断だが、“超限定措置”での公開とすることにした。インタビュー内容はACNの支援者でかつ希望する方のみにご覧いただける。流用禁止の誓約書に同意と、文面を直接お読みいただき、その場で返却、といった面倒な段取りとなるがどうぞご理解いただきたい。そもそも透過性が無視されたような出来事だったのだから、そのまま完全隠蔽でいいんじゃないかって意見も出そうだけれど、とんでもない。“語るべきこと”の核心はそこにこそあると私は考えている。閲覧を希望される方は、伊藤(巻末参照)まで連絡されたい。なお、この“失敗”については次号で解説したい。それは、私たちの目から、うるこを確かに落とした。



夕暮れのAW。浅井和英氏の送別パーティに集まったNCCCの子供たち(2010/2)

From ACN's Desk : 事務局から

●寄付・寄贈について

2011/12/31 現在までの、寄付金累積総額は、**¥3,539,873 + US\$7,010**となりました。また、里親基金累計総額は、**¥980,000 + US\$1,250**です。ご寄付をいただいた方52名様、ご寄贈いただいた方17名様、及び里親となっていた方4名様となっています。大変ありがとうございました。

2011年9月～12月までに、ご寄付、ご寄贈、里親出資いただいた方は下記の通りです。なお本お知らせは、email版ニューズレターと連携して対応する期間に寄付された方のお名前だけを本誌にて、順次お知らせしています。

一寄付

榎田猛彦様、高橋千鶴子様、中江恵美子様、林 武子様、安田至宏様、虎本節子様(順不同)

一里親

堀田圭子様、才原明男様、榎澤健治様(順不同)

一備品寄贈

山田邦彦様、玉井史人様、安田至宏様(輸送関連)、伊藤洋美様、(順不同)



★★★ 寄付金用口座 ★★★

■ゆうちょ銀行

記号 10010
番号 75286831
口座名 アンコールクライマーズネット

■三菱東京UFJ銀行

支店名：調布支店
預金種目：普通預金 口座番号：0081781
口座名：アンコールクライマーズネット

Webサイトでもご確認出来ます
http://www.angkorclimbers.net/can_donation.html

☆☆☆ アンコールクライマーズネット連絡先 ☆☆☆

■アンコールクライマーズネット（日本）
伊藤忠男気付
〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506
tel. & fax +81-(0)42-498-2488

■アンコールクライマーズネット（カンボジア）
Angkor Climbers Net (ACN)
tel. +855-(0)77-508653, +855-(0)12-1759970

・郵便住所
POBOX 93044, Siem Reap, Siem Reap, Cambodia

・所在地
c/o Moloppor Café
Wat Bou village, Salakomrauk commune
Siem Reap, Siem Reap, Cambodia

■ email info@angkorclimbers.net



初めてのマルチピッチ →

チェンマイ・クレージーホースバットレスにて、初めてマルチピッチにトライするスムロンとキムスロイ。スムロンはこのあとすぐにATCを落としたあ〜!!

← カンボジア初のストライキ

10月、シェムリアプの5スターホテルで従業員が労働条件の改善を求めてカンボジアで初めてと言われるストライキを行ったが、3日目に機動隊に排除された。



contents

01 2011Workshop for Siem Reap province with school students

02 About 'Angkor Cup2012'

03 2012年、4つの課題

04 2011 9~12月 活動報告

ACN-YOUTH 奨学金制度の開始

定例活動

アウトドア活動

保険調査

ガイド業務開始への準備

会計管理の現地移行

NCCCのクライミングからの撤退について

07 From ACN's Desk

事務局から

※写真、地図、イラストはすべてACNオリジナルコンテンツです

editor's note

8号をお届けします。eメール登録されている方には、urlからサーバーに置いたPDFにアクセスしていただきました。Emailアドレス未登録の方には、従来通り印刷して郵便でお送りしました。今号は新たな取り組み、シェムリアプ州内の中高校生を対象にしたWorkshopが目玉です。そしてNCCCで何があったのか、松本清嗣さんへのインタビューを掲載する予定でしたが、超限定措置をとることにしました。その経緯は本文にて説明しています。私は今は日本ですがすぐに現地へ向かいます。次号ではお知らせしたコンペの結果をお伝えできるかと思えます。(Chu)

©禁無断転載

アンコールクライマーズネットニュースレター

2011年12月号 NO.8 2011年12月31日発行

非売品

発行人 伊藤忠男

編集人 伊藤忠男

発行 アンコールクライマーズネット (Angkor Climbers Net)

〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506

tel 042-498-2488 fax 042-498-2488

www.angkorclimbers.net